

蟬のいつばい

蟬のいつばい鳴きしきる木立
緑の葉の濃く茂る下で
お前のうしろ姿を見るだけで
私は立ち去るのがよかつたのかもしれない

美しい白いお前の横顔を
ちらりと見かけて
好きだなあと思っただけで
私は立ち去るのがよかつたのかもしれない

氷つた池の面のその厚ぼつたい光
冬木立の黒い幹の影の向ふ側に
お前を見つめ

長い人生の中で たとへ はかなくとも
決してわすれることのないであらう瞬間を
信じて 私は立ち去るのがよかつたのかもしれない